1　がんしゅ病【病原体：*Pseudomonas* 属菌（細菌）】

A　発生生態

1　本病は細菌性の病害で芽、葉、果実、枝、幹など樹のほとんどの部位に発生し、傷口から感染する。
2　病原菌は、枝幹部の病斑から降雨によって伝ぱする。

B　化学薬剤以外の防除

1　り病苗を持ち込まないようにする。
2　肥培管理に留意して樹を健全に育てる。
3　芽かきはなるべく小さい時に数回にわたって行う。
4　発病部位の削り取りを行う。再度、発病した場合も早めに削り取りを行う。
5　ナシヒメシンクイの食入によって病斑が拡大したり、カミキリムシ類の加害痕から発病したりするので、これらの防除も同時に行う。

C　薬剤防除のポイント

1　薬剤は枝幹部を中心に散布する。
2　銅剤を含む薬剤では、薬害を軽減するため炭酸カルシウムを加用する。

農薬検索

農薬使用時はラベルをよく読み、記載された登録内容に基づいて使用するとともに、農薬の使用を指導する際は最新の登録情報を入手してください。

熊本県の防除指針に採用されている農薬の検索システムへのアクセスはこちら！

2　灰斑病【病原体：*Pestalotiopsis* 属菌など（糸状菌）】

A　発生生態

1　葉に発生した場合は円形灰色の病斑を生じ、果実に発生した場合は軟腐する。多発すると激しく落葉し、樹勢を弱らせる。
2　病斑上に形成された分生胞子が雨水によって飛散し、葉や果実の表面で発芽して侵入する。

果実での症状

B　化学薬剤以外の防除

1　り病葉を処分する。
2　通風採光を図り、樹勢強化に努める。
3　収穫果実を傷つけないように注意する。

C　薬剤防除のポイント

1　葉への感染を防止するために、春葉、夏葉、秋葉の各伸長期に防除を行う。
2　果実腐敗を防ぐために出蕾から袋掛け前にかけて、防除を行う。

農薬検索

農薬使用時はラベルをよく読み、記載された登録内容に基づいて使用するとともに、農薬の使用を指導する際は最新の登録情報を入手してください。

熊本県の防除指針に採用されている農薬の検索システムへのアクセスはこちら！

3　灰色かび病【病原体：*Botrytis* 属菌（糸状菌）】

A　発生生態

1　露地でも見られるが、施設栽培で発生が多い。
2　発病は発芽期から始まり、花腐れ状となり、果実へ感染する。開花終期に過湿になると発生が多くなる。

B　化学薬剤以外の防除

1　通風採光を図り、施設栽培では排水、換気に努め、過湿にならないようにする。
2　果頂部の花弁を除去して幼果への感染を防止する。

C　薬剤防除のポイント

開花終期～袋掛け前に薬剤防除を実施する。

農薬検索

農薬使用時はラベルをよく読み、記載された登録内容に基づいて使用するとともに、農薬の使用を指導する際は最新の登録情報を入手してください。

熊本県の防除指針に採用されている農薬の検索システムへのアクセスはこちら！

４　ごま色斑点病【病原体：*Entomosporium* 属菌（糸状菌）】

A　発生生態

春葉の発芽期から晩秋まで感染する。下葉に発病が多いことから、雨または土壌の雨によるはねあがりで伝染するのが主体である。

B　化学薬剤以外の防除

第一次伝染源は落葉病斑であるため、発芽前に園内の落葉は処分する。また、春葉でも病斑の多く発生した葉は除去し園外で処分する。

C　薬剤防除のポイント

新葉の発芽伸長期にベノミル水和剤またはチオファネートメチル水和剤（ＦＲＡＣコード：１）を散布する。

農薬検索

農薬使用時はラベルをよく読み、記載された登録内容に基づいて使用するとともに、農薬の使用を指導する際は最新の登録情報を入手してください。

熊本県の防除指針に採用されている農薬の検索システムへのアクセスはこちら！

5　炭疽病【病原体：*Colletotrichum* 属菌（糸状菌）】

A　発生生態

主として熟果に発生し、まれに新葉にも発生する。果実は腐敗し、病斑上に鮭肉色の粘塊を形成する。新葉では葉の縁に輪紋を形成し、内側に湾曲する。

果実での症状

B　化学薬剤以外の防除

1　発病果は園外で処分する。
2　収穫果実を傷つけないように注意する。

C　薬剤防除のポイント

開花期の予防散布を徹底する。

農薬検索

農薬使用時はラベルをよく読み、記載された登録内容に基づいて使用するとともに、農薬の使用を指導する際は最新の登録情報を入手してください。

熊本県の防除指針に採用されている農薬の検索システムへのアクセスはこちら！

6　ナシヒメシンクイ

A　発生生態

1　がんしゅ病の発生部位内、樹皮内に幼虫が越冬する。
2　新梢、収穫跡、芽かき跡、せん定跡等に食入しやすいので注意する。
3　７月下旬、８月中旬から９月上旬に多発生する。

B　化学薬剤以外の防除方法

1　がんしゅ病の発生部位等に生息する虫は発見しだい捕殺する。
2　がんしゅ病で枯死寸前の樹は早めに伐採する。
3　がんしゅ病の発生部位、せん定跡などから食入しやすいので、ゆ合剤を塗布し、すみやかに傷口を治癒させる。

C　薬剤防除のポイント

1　薬剤防除は、主に収穫後、芽かき後、せん定後に行う。
2　性フェロモン剤（交信撹乱剤）は、成虫発生初期から設置する。防除効果を高くするため、生産地域や隣接ほ場と共に取り組んで、設置面積を広くする（目安は２ｈａ以上）。設置本数の８割を園全体に、残りの２割を周辺部に設置する。フェロモンは空気より重く、傾斜地では下に流れるため、ほ場の上部では、設置本数を多くする。

農薬検索

農薬使用時はラベルをよく読み、記載された登録内容に基づいて使用するとともに、農薬の使用を指導する際は最新の登録情報を入手してください。

熊本県の防除指針に採用されている農薬の検索システムへのアクセスはこちら！

7　ハマキムシ類

A　発生生態

1　ビワにはビワコガ、チャノコカクモンハマキなどのハマキムシ類が寄生する。
2　発生は新葉の展開初期に限られる。

B　化学薬剤以外の防除方法

葉を巻いている幼虫を発見し、捕殺する。

C　薬剤防除のポイント

新梢発生期の展葉初期に早期発見、早期防除に努める。

農薬検索

農薬使用時はラベルをよく読み、記載された登録内容に基づいて使用するとともに、農薬の使用を指導する際は最新の登録情報を入手してください。

熊本県の防除指針に採用されている農薬の検索システムへのアクセスはこちら！

8　ナシマルカイガラムシ（サンホーゼカイガラムシ）

A　発生生態

年３世代の発生であり、１齢幼虫で越冬する。発生は成木や老木よりも幼木や若木に多く、主幹より枝に多い。多発すると樹勢低下の原因となる。

B　化学薬剤以外の防除方法

粗皮を削り取り、園外に除去する。

C　薬剤防除のポイント

第１世代幼虫期、第２世代幼虫期を重点的に防除する。

農薬検索

農薬使用時はラベルをよく読み、記載された登録内容に基づいて使用するとともに、農薬の使用を指導する際は最新の登録情報を入手してください。

熊本県の防除指針に採用されている農薬の検索システムへのアクセスはこちら！

９　アブラムシ類（ナシミドリオオアブラムシ、ユキヤナギアブラムシ、ワタアブラムシ）

A　発生生態

１　ビワには数種のアブラムシ類が寄生するが、主にナシミドリオオアブラムシ、ユキヤナギアブラムシ、ワタアブラムシの３種類である。

２　ナシミドリオオアブラムシは１１月から５月に硬化した葉に、他の２種類は４月から１０月にかけて未硬化葉に発生する。

C　薬剤防除のポイント

１　防除適期はユキヤナギアブラムシやワタアブラムシでは４～５月、７～９月の新梢伸長期の発生初期である。葉のよじれや巻葉などの被害が生じてからは手遅れであるので、新梢が伸長し始め、数頭の寄生が認められたら薬剤を散布する。

２　ナシミドリオオアブラムシでは４～５月に旧葉にすす病が発生したり、黄変した葉が２枚でもみられたら、防除適期である。黄変葉がかなりみられるようになったら手遅れである。

農薬検索

農薬使用時はラベルをよく読み、記載された登録内容に基づいて使用するとともに、農薬の使用を指導する際は最新の登録情報を入手してください。

熊本県の防除指針に採用されている農薬の検索システムへのアクセスはこちら！

１０　クワカミキリ

A　発生生態

1　成虫は６月下旬から７月にかけて脱出する。
2　産卵は６月下旬から９月上旬にかけて行われ、７月下旬から８月初め頃がピークである。

B　化学薬剤以外の防除方法

1　産卵痕を見つけ、卵や幼虫を捕殺する。
2　排糞孔から針金を差し込み、幼虫を刺殺する。

C　薬剤防除のポイント

1　産卵の始まる６月下旬から、産卵の終わる９月上旬までに樹幹部への防除を行う。
2　エアゾール剤は、８月中下旬（若齢幼虫期）に食入部に噴射して使用する。

農薬検索

農薬使用時はラベルをよく読み、記載された登録内容に基づいて使用するとともに、農薬の使用を指導する際は最新の登録情報を入手してください。

熊本県の防除指針に採用されている農薬の検索システムへのアクセスはこちら！

１１　ビワサビダニ

A　発生生態

ビワの花の苞の内側に寄生し、開花期から落弁期に果実表面を加害する。ビワサビダニの加害跡に灰色かび病菌を主とする糸状菌が侵入し、たてぼや症（かすり状の縦筋）となる。

B　化学薬剤以外の防除方法

通風採光に注意し、ハウス栽培では排水、換気に努め過湿にならないようにする。

C　薬剤防除のポイント

1　防除適期は満開期であるが、開花期前と併せて２回防除を行う方が望ましい。
2　ビワはうぶ毛に覆われているため、散布の際は、湿展性展着剤を混用すると防除効果が高まる。

農薬検索

農薬使用時はラベルをよく読み、記載された登録内容に基づいて使用するとともに、農薬の使用を指導する際は最新の登録情報を入手してください。

熊本県の防除指針に採用されている農薬の検索システムへのアクセスはこちら！